

# ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

88

2018. 4. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して―協同が息づくまちづくり―」を基本理念として、協同組合の共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ ..... 1
2. 2017年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開く ..... 2
3. 2017年度協同組合研究・交流会を開く ..... 4
4. 兵庫JCC2018年度活動計画 ..... 5

Contents

5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一
  - 生協/JForest（森林組合） ..... 6
  - JF（漁協）/JA（農協） ..... 7
6. 協同組合運動に生きる  
 コープのお店を地域のくらしの拠点に  
 生活協同組合コープこうべ 理事 中西 志津子 ..... 8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### 第13回 新春トップセミナー・賀詞交換会



#### 生協

1月6日、兵庫県民会館で「第13回 新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。会員生協・団体の役員と職員44人が参加したセミナーでは、協同組合の役割と今後の展望について学びました。

### JAグループ兵庫イメージビデオ「農と食、そして地域。つなくJA」



#### JA（農協）

JAグループ兵庫が農業振興と地域貢献活動に取り組んでいる姿を、イメージビデオとして制作しました。ホームページ(検索キーワード「JAグループ兵庫」)や全農兵庫がJR元町駅東口に設置しているデジタルサイネージ「JAチャンネル兵庫」などで放映しています。

### イカナゴ漁解禁！



#### JF（漁協）

ひょうごの春告魚、イカナゴ漁が2月26日に解禁となり、兵庫のおさかなファンクラブ「シートクラブ」では、毎年ご好評を頂いているイカナゴくぎ煮教室が開催されました。

### 森林組合役員コンプライアンス研修会を開く



#### JForest（森林組合）

3月1日に森林組合役員コンプライアンス研修会をラッセホールにて開催しました。県内森林組合の役員等、約180人が、講師で招いた全国森林組合連合会及び株式会社フォレスト・ミッションの講義に熱心に聴き入りました。

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）  
 Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
 生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634  
 兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078) 333-5896  
 兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013  
 兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

# 2017年度 「虹の仲間づくりカレッジ」を開く

兵庫 JCC は 2017 年度、生活協同組合コープこうべとの共催で「虹の仲間づくりカレッジ」を全 3 回の講座で開催し、各協同組合の職員 16 人が参加しました。今年度は、「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題を「職員ボランティア活動」の実験的展開を通して考えることをテーマに開催しました。次世代を担う協同組合の職員同士が顔の見える関係をつくり、暮らし、地域、社会の中で果たすべき役割についてともに考えました。

第 3 回は 2 月 14 日～15 日に開催し、10 月から 1 月にかけて各班で実践したボランティア活動の成果について報告しました。

1 班は、12 月 16 日に南あわじ市湊里「谷田池」「西ノ池」で、かいぼり「ため池・里海交流保全活動」に取り組みました。高齢化等によりため池の適正な維持管理が困難となっている農村と、海の栄養塩減少が課題となっている漁村が抱える問題を解決するため、農業者・漁業者・ボランティアが一緒になり、かいぼりを行いました。

2 班は、1 月 14 日に西宮市越水「コープの森・社家郷山」で、森林整備「冬の社家 GO 活動を体験しよう」に取り組みました。

生態系・森林保全の必要性を散策や除伐体験を通して学びながら森林整備を進める活動を行いました。

3 班は、10 月 15 日に篠山市畑地区「瀬利集落」で、獣害対策「さる×はた合戦」に取り組みました。人手が足りず集落で放置され農作物の獣害の原因となっている柿を、地域内外の人で採り、サルの出没を抑える活動を行いました。

参加者は、実践活動を通して、生産、環境、地域コミュニティなどが抱える課題に対して、協同組合間で取り組めることについて考えました。また、実践や全国の協同組合間協同の事例を SDGs\* と重ね、これからの協同組合間協同で取り組む企画を業務・ボランティア活動両方の視点から考えました。最後に一人ひとりが明日から個人で取り組むことについて決意表明を行い、虹の仲間づくりカレッジを終了しました。

参加者からは、「貴重な仲間ができた」「協同組合間協同の大切さを実感できた」「実践を通じて地域の課題に向き合うことができた」等の感想が寄せられました。

\* 国連で採択された「持続可能な開発目標」



実践活動の成果を話し合う受講生



実践活動を報告



## 1班 かいぼり「ため池・里海交流保全活動」

12月16日 南あわじ市湊里「谷田池」「西ノ池」 92人参加

農村と漁村が抱える問題を農業者・漁業者・ボランティアが一緒に行うかいぼりの活動。



液状になった泥の掻き出し作業



大学生を含む多くのボランティアが参加

## 2班 森林整備「冬の社家 GO 活動を体験しよう」

1月14日 西宮市越水社家郷山「コープの森・社家郷山」 40人参加

生態系・森林保全の必要性を散策や除伐体験を通して、学びながら森林整備を進める活動。



散策しながら里山について学習



除伐体験

## 3班 獣害対策「さる×はた合戦」

10月15日 篠山市畑地区「瀬利集落」 8人参加

人手が足りず集落で放置され農作物の獣害の原因となっている柿を、地域内外の人で採り、サルの出没を抑える活動。



柿採り



電気柵設置による獣害対策について学習

## 2017年度協同組合研究・交流会を開く

兵庫 JCC は 11 月 16 日、豊岡市内で 2017 年度協同組合研究・交流会を開催しました。この研究・交流会は、生協、JA、JF、森林組合の各協同組合がお互いの事業・活動を学習・共有化して、今後のさらなる協同・連携を促進することを目的に開催しているもので、今回は各協同組合の組合員・役職員など 29 人が参加しました。

午前は、JA たじまで、友田達也代表理事専務から、「コウノトリ育むお米」の取り組みをはじめとして、同 JA が取り組む環境に配慮した農業とブランド化の取り組みについて、報告していただきました。その後、同 JA 穀類共同乾燥調製貯蔵施設「こうのとりの



こうのとりのカントリーエレベーター内部で説明を受ける

カントリーエレベーター」を見学しました。大、小の貯蔵タンクを併設し、コウノトリ育むお米をはじめとする 14 種類もの米を区分して処理できる施設としては日本初、4,350t という貯蔵能力

は西日本最大級で、米の品質向上をはかるため火力を使わない「常温除湿乾燥方式」や、生産者の荷受けの待ち時間短縮・労力軽減のため持ち込まれた籾をトラックごと計量できる「トラックスケール方式」等、最新の設備に加え様々な配慮がなされていることを説明していただきました。

午後からは、コウノトリの郷公園で 100 羽以上まで復活したコウノトリを見学した後、中谷農事組合法人を訪問しました。同法人の小島昭則組合長から、中谷地区の農家 33 戸で一集落一農場方式により設立した集落営農組織を法人化し、減農薬無化学肥料栽培による米や、コウノトリ育む農法による大豆を生産するなど、環境にやさしい農業を行い、有利販売につなげていることについて、説明していただきました。

参加者からは、「環境創造型農業の取り組みの意義について学んだ」「コウノトリを取り囲み、色々な団体が協力しながら環境を考え、それぞれの事業の目的を実現する理想的な取り組みだと思った」「コウノトリ育むお米の取り組みをより多くの組合員に伝え、購入することで応援できればと思う」などの感想が寄せられ、協同組合間の相互理解を深めることができました。



コウノトリの郷公園



中谷農事組合法人 小島組合長から説明していただく



# 兵庫JCC2018年度活動計画

目的：協同組合の原点学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	主な活動内容	規模	実施日
第96回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	テーマ：「協同の力で未来を拓く」 講演：「知っていますか？ SDGs（持続可能な開発目標）国谷裕子さんと考える、誰一人取り残さない社会」 講師：国谷 裕子 氏	約350人	7月6日
「虹の仲間づくりカレッジ」 の開催	2013年から取り組んだ「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を発展させたものとして、「協同組合は地域・社会に貢献できるか」をテーマに開催し、生産から消費をつなぐ協同組合間協同の可能性について共に考え実践につなげる。	約25人	①8月下旬 (1泊2日を予定) ②10月 ③2月 (②③は1日を予定)
兵庫県版 「森は海の恋人」運動	兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる森づくり活動に兵庫 JCC の参加を呼びかける。	約100人	12月予定
協同組合 研究・交流企画	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深めるため、生協、農協、漁協、森林組合の各協同組合が、互いの事業と活動を学習・共有化し、今後のさらなる協同・連携を促進する。今年度は、生協の社会的課題解決の取り組み事例等を見学の予定。	約40人	実施日未定
PHD運動への協力	兵庫 JCC として、(公財) PHD 協会による PHD 運動への協力を行う。 ①各協同組合で PHD 運動を紹介 ② PHD 会員としての協力 ③研修生の受け入れ		

## 「日本協同組合連携機構（JCA）」がスタートしました

協同組合間協同は、協同組合原則の一つであり、国際的な機関である「国際協同組合連盟（略称：ICA）」が世界的な活動をリードしてきました。わが国では「日本協同組合連絡協議会（略称：JJC）」が1956年に発足し、農業協同組合、消費生活協同組合、水産業協同組合、森林組合等の協同組合組織14団体が、相互の連携、共通問題の解決、海外協同組合運動の連携強化等の活動を行ってきました。

グローバル化が進み、経済の地域格差の拡大や人口減少、高齢化による活力低下などの問題に対し、協同組合が今まで以上に連携を強化して「持続可能な地域づくり」を実現することに期待が高まっています。

そのため2018年4月1日、協同組合間協同を今まで以上に強化するための新たな組織「一般社団法人日本協同組合連携機構（略称：JCA）」が、一般社団法人JC総研を改組して設立されました。同機構によるこれからの活動に大いに期待が寄せられます。



JCAのロゴマーク（左）とICAが定めた協同組合共通のロゴマーク

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## 生協から

### 「協同シンポジウム 2017in ひょうご」を開催

11月25日、兵庫県農業会館で兵庫県生協連・近畿労働金庫共催「協同シンポジウム 2017in ひょうご」を開催し、生協・近畿労働金庫の役員と職員や組合員、NPO等市民団体など約200人が参加しました。「協同シンポジウム」は、近畿労働金庫と近畿府県連との共催で毎年開催され、5回目となる今回は兵庫で行われました。「多様な助け合い



ていだん  
鼎談（写真右から 労働者福祉中央協議会 高橋 均アドバイザー、日本生活協同組合連合会 浅田 克己顧問）

の力が社会を変える」をテーマに生協・労福協の歴史を振り返りこれからの共生社会づくりに向けて地域での連携についての講演と鼎談<sup>ていだん</sup>がありました。浅田顧問は「私達の事業や運動の中に様々な助け合いや連携のエピソードがある。エピソードを共有することで次の社会での役割を考えるアイデアが生まれる」と話され、高橋アドバイザーからは「運動と事業の両立は協同組合の宿命。協同組合の原点を繰り返し学習することが大切」と話されました。参加者からは、「社会情勢から協同組合が果たすべき役割はまだたくさんあることを再認識できました」「理屈で人は変えられない。感動が人を変える。これから何をすべきか考えるきっかけができました」などの感想が寄せられました。

## JForest(森林組合)から

### 兵庫県林業会館の建替え工事の着手について

兵庫県林業会館（昭和47年建設）の建替えにあたり、兵庫県林業関係4団体（兵庫県森林組合連合会、兵庫県木材業協同組合連合会、（一社）兵庫県治山林道協会、兵庫県林業種苗協同組合）では、木材利用が進んでこなかったオフィスビル、都心部防火地域における中高層ビルへの木材利用の促進を目的として、建替えの計画を進めています。

平成29年3月から兵庫県林業会館新築工事建築実証協議会を立ち上げ、同年11月から実施設計に取り組みと同時に、旧林業会館の取り壊し工事を進めてきましたが、平成30年2月末で取り壊し工事が完了し、いよいよ新築工事に着手することとなりました。

新しい兵庫県林業会館の建築費は約6億円、構造は1階が鉄筋コンクリート造、2～5階がCLT\*と鉄骨ハイブリッド造とし、市松模様で配置されるCLT外壁は、ガラスカーテンウォール越しに館外からも見えるように設計されており、入居予定は平成31年2月を予定しています。

また、本建替え工事については林野庁（基本設計実証・部材燃焼試験）、環境省（実施設計・施工等）、兵庫県（環境省補助対象外工事）の補助を受けて進めています。

\*CLTはひき板を繊維方向が直交するように交互に接着した重厚なパネルのことを言います。工場でのCLTパネルの加工がおこなわれるため現場での施工が少なくなることによる建築期間の短縮や、木材を使用することによる断熱性や省エネ効果等が期待できます。



新「兵庫県林業会館」イメージ

# JF(漁協)から

## イカナゴシーズンに盛りだくさんのイベント



イカナゴくぎ煮教室

JF 兵庫漁連のひょうごのおさかなファンクラブ「SEAT-CLUB (シートクラブ)」では、3月7日から3月15日まで、イカナゴのくぎ煮教室を開催しました。

この教室は、募集開始と同時に予約の電話が鳴り続け、すぐに全日程が満席となる人気教室で、毎年好評をいただいています。



出前くぎ煮教室

また、漁業者で組織する「兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会」と連携して毎年行っている出前のくぎ煮教室は、県内の22校の小中学校の家庭科の

授業で31講座開催し、伝統的な兵庫県の食文化を子供たちに体験していただきました。

さらに、第3回イカナゴ料理コンテスト(主催:兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会)が、3月17日に兵庫県水産会館の調理実習室で開催され、一次審査を通過した10人の方々の腕が競い合われ、審査の結果、大賞には、餃子の皮・チーズ等を使った「イカナゴボール」が選ばれました。

このコンテストは、くぎ煮以外のイカナゴ料理のレシピを競い合うコンテストで、若い消費者の方にもっとイカナゴの良さを知ってもらいたいと、漁業者の発案で開催されています。

今年のイカナゴ漁は2月26日に解禁となりました。昨年の記録的な不漁をうけ、漁業者は少しでも旬の味覚を家庭へ届けたいと出漁しましたが、残念ながら今年も漁獲量は平年を下回る結果となりました。



腕を奮う出場者



大賞レシピ「イカナゴボール」

伝統的な魚食文化が継承されていくよう、来年は豊漁に恵まれ、より多くのイカナゴが食卓に並ぶことを願うばかりです。

# JA(農協)から

## 地域農業の振興めざし JA 営農指導員が実績発表

地域農業の振興、担い手の育成・支援、販売力の強化に向けて、JA 営農指導員等の能力向上を図るため、日頃の活動実績を発表し、相互研鑽を図る研修大会を JA 兵庫中央会が開催しています。

平成29年度は9JAから活動実績発表が行われ、「たつの市揖西町における農業生産の拡大と農家所得向上への取組みについて」を発表した JA 兵庫西の青木健浩さんが最優秀を受賞しました。青木さんは、需要のある黒大豆、契約栽培米「やまだわら」、加工用白菜の生産拡大の提案によって、栽培面積、販売高の増加を実現した成果を発表しました。

また、JA 全中は、平成28年度から JA 営農指導実践全国大会を開催。JA グループの自己改革で目指す「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向け、産地振興や技術普及等の営農指導業務で優れた成果をあげた職員を表彰し、その取組みを広く紹介することにより、営農指導員のレベル向上とネットワークの構築を図っています。平成29年度は、全国8ブロックから選ばれた8人が全国大会に出場し、「黒大豆枝豆ができる三田の農業を守る3つのこと」と題して発表した JA 兵庫六甲三田営農総合センターの畠一希営農相談員が、最優秀賞を受賞しました。



本県の大会で最優秀を受賞した  
JA 兵庫西の青木さん



## 協同組合運動 に生きる

# コープのお店を 地域のくらしの拠点に

生活協同組合コープこうべ 理事 中西 志津子



「ここは何をするところですか？」

来店した組合員が興味津々に尋ねます。「皆さんで楽しめることなら何でも！何がしたいですか？ここは、“集う・学ぶ・つながる”場所なんです」

コープこうべの店舗「コープ園田」の全面改装で、2階の衣料品売り場の一部が地域住民の拠点となるスペースに生まれ変わりました。名付けて『みなくる☆そのだ コープさんとこ』。ほっこり落ち着けて、それでいて新しいことが始まるわくわくを感じるこの空間の名称は、地域の方々が集まる“拠点会議”で決まりました。

ここに拠点を開設することが決まったのは改装オープン予定を半年後に控えた時期。これからの縮減社会の中でコープこうべが果たすべき役割を考える時、売り場スペースを減らしてでもコープの事業所を地域の暮らしの拠点にし、孤立を防ぐためのネットワークが生まれる場を作ろう！生協が人をつなぐプラットフォームになろう！との方針の下、店舗改装に関わる本部の関係部署(店舗開発や店舗事業、拠点づくり推進部、地区活動本部等)がタッグを組んで、これまでできそうでできなかった夢を実現させました。

改装オープンまでのタイトな期間でも「できる！」と判断した理由のひとつに、園田独特の地域のチカラがあります。園田地域では、2015年に、行政や社会福祉協議会、PTAや地域のNPO法人、社会福祉法人、そしてコープこうべなどの団体が自主的に「園田地区子育て支援連絡会」というネットワーク組織を立ち上げました。このネットワーク力で地域に子ども食堂を開き、学校とも情報を共有しながら、子どもたちを通して孤立しがちな家庭を地域みんなで見守るという風土づくりを行ってきたのです。

近年、尼崎市は一人ひとりの市民力を生かせるまちづくり施策を推進しており、そのひとつに「みんなの尼崎大学」構想があります。大学といっても建物ができたり、学校教育法に基づいた大学ではなく、「みんなが先生、みんなが生徒、どこでも教室」をスクールモットーに、尼崎市内のあちらこちらにすでにあ

る「学びの場」で学んでいる人や活動が連携して、みんなで「大学ごっこ」をしながら尼崎をもっと楽しく学べるまちにしようというプロジェクトです。好奇心を忘れず、新しいことに会いおうとする人がたくさんいれば、例えば何か困ったことが起きても、みんなの力で解決できる魅力的なまちになるはず…という発想です。このような素地のある地域だからこそ、“拠点会議”メンバーを募った際、行政も含めて多くの方々が「地域におけるコープこうべのお店」を共に考えようと手を上げ参加してくれたのだと思います。

拠点の名称を決めるときの面白いエピソードがあります。コープこうべの組合員は活動場所に「コープさん」と付けるのには少し抵抗があったのですが、“拠点会議”に新しく参画してくれた方々から、『自分たちにとって「コープさんとこ」は、親しみと敬意を込めたものなのです』との発言がありました。そこで、折衷案で「みなくる☆そのだ コープさんとこ」という長い名前になりました。コープさんとこに集う人たちのチカラで、まちに素敵なミラクルが起こりますように！との願いが込められているのです。

生協がその価値を地域に活かせることはまだまだあります。生協だけではできないことも地域とチカラを合わせればカタチにあらわすことができることを学びました。「こんな場所が欲しかった」と喜んでくださる人々の笑顔のために、私もみんなの拠点を見守っていきたくと思っています。



尼崎大学生活科学科の様子